京都版 テリトーリオから学ぶ

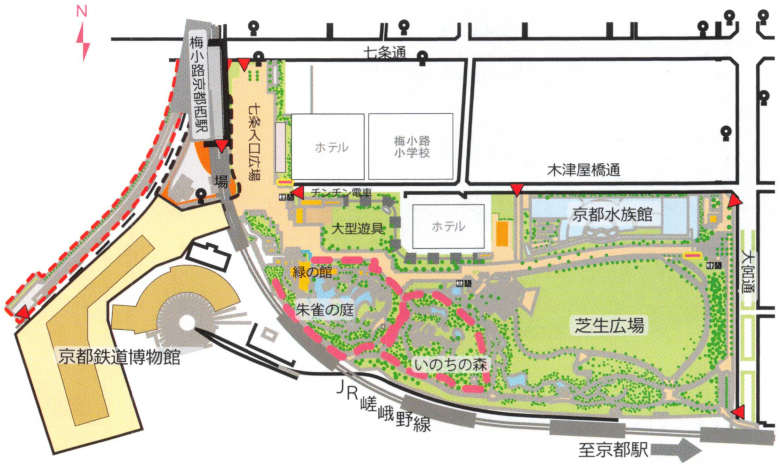
都市と農村の創造的な未来を感じる旅

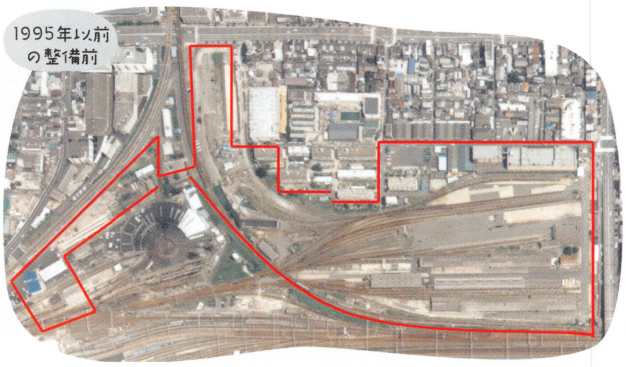
梅小路 アーバングリーン編

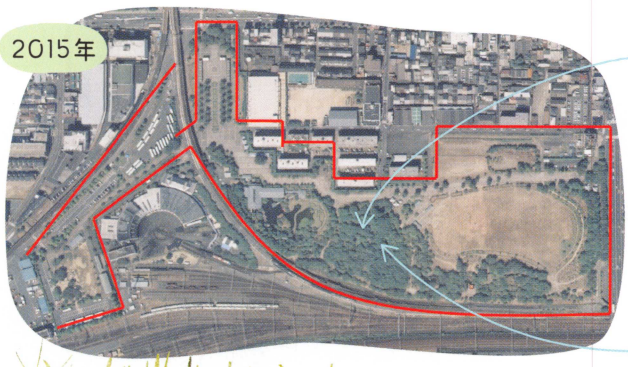
Nature-based Solutions & Green Infrastructures in Kyoto

01 成り立ちから今日までの貴重な記録を公開！ 梅小路公園の 20 年

梅小路公園は元々は草も木も無かった鉄道貨物のヤードでしたが、1995 年に「都心の緑の創造」、「歴史の継承と未来への飛躍」をテーマに 13.7 ha の総合公園として整備されました。年間来場者数は 430 万人 (2017 年調査) にのぼり、災害時には 5 万人が避難可能です。平成の日本庭園や多様な生き物が生息するビオトープも備え、都心にありながら豊かな緑に触れ合うことができる京都の貴重なオアシスとなっています。







1998 2015

02 伝統と創生の調和をめざした平成の日本庭園！
『朱雀の庭』：伝統技術の継承

朱雀の庭は、平安建都 1200 年を記念し、長い歴史の中で培われてきた京都の伝統的作庭技術の粋を結集して作られた池泉回遊式庭園です。浅池を中心に築山や滝、野筋や花床などが周囲に配置され、歩みに連れて景色が変化します。京にゆかりのある植物を展示する「和の花展（春・秋）」、ライトアップされた紅葉の水面への映り込みが美しい「紅葉まつり (11 月中旬～下旬)」には特に多くの人々でにぎわいます。また、造園業に携わる人々が伝統技法を学ぶ研修場としての役割も果たしており、この場所で平成から令和、その先へと技術が受け継がれています。

(a) 水鏡

黒御影石の上に薄く 1cm だけ水を張り、周囲の景色がよく写り込むように設計されています。

(b) 野筋

水が野を分けて流れる地形を野筋といいます。平安時代の宮中では、野筋の流れで持歌を詠む「曲水の宴」が行われていました。

(c) 滝

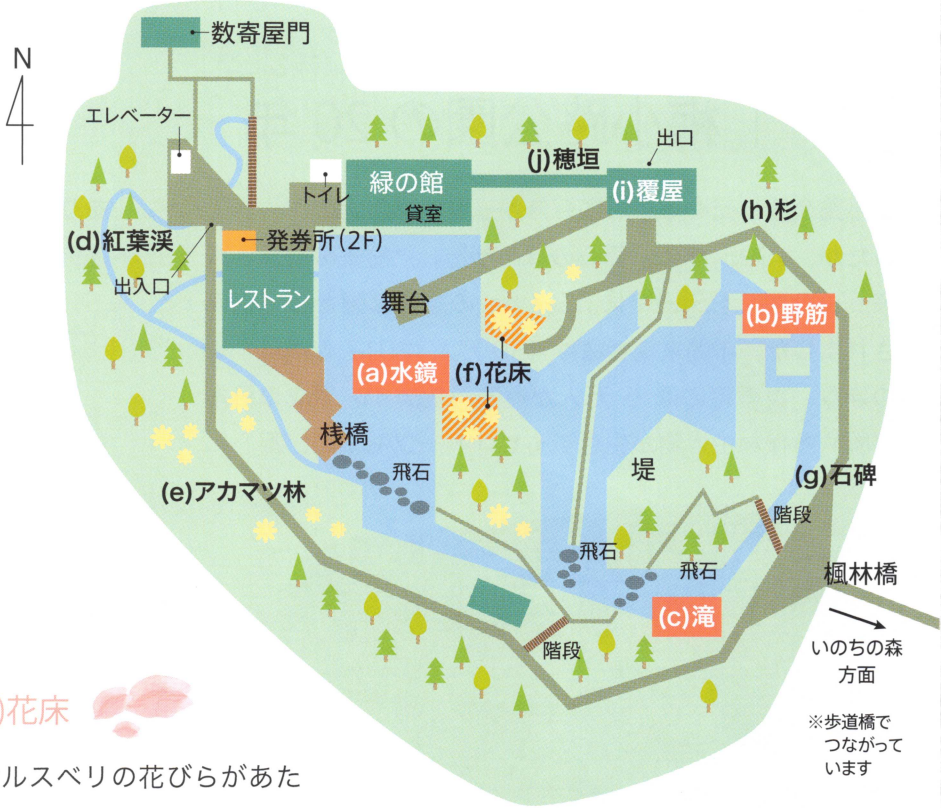
落差 6.0 m、京都市内にある日本庭園の滝としては最大のものです。

(d)紅葉渓

イロハモミジの別名はタカオカエデ。紅葉の名所「高尾」の景色を偲ばせます。

(e)アカマツ林

林床にはコバノミツバツツジやクマザサも広がり、昔の京都の山々の風景を形作っています。



(f)花床

サルスベリの花びらがあたりに散らばる情景を演出する花の景色が水鏡に色鮮やかに浮かび上がります。

(g)平清盛公西八条第跡の石碑

この石碑から南東側に平清盛公をはじめとする平家一門の邸宅群「西八条第」がありました。

(h) 杉

京都の北山杉と同種のシロスギが植栽されています。

(i)覆屋

覆屋周辺は露地庭の風情を醸し出しています。

(J)穂垣

出口付近にある精巧な生垣は京都の伝統手技によって作られています。

03 都心に再生された生き物たちの聖域！『いのちの森』：自然再生の変遷

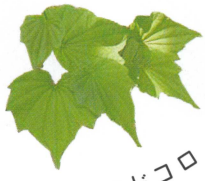
「いのちの森」は貨物駅の跡地に都市化以前の京都本来の自然を復元することを夢見てつくられました。目標の一つは下鴨神社「糺ノ森」の落葉広葉樹林です。梅小路公園の開園から 1 年後の 1996 年につくられた「いのちの森」では、専門家と市民で構成される京都ビオトープ研究会が生き物のモニタリングを続けてきました。調査の結果、外来種が出現するなどの課題もありますが、開園から 20 年で植物 572 種、菌類 344 種、鳥類 64 種、昆虫 29 種が発見されており、人工の森が「ほんものの森」になりつつあることがわかってきています。

フクロウ

キビタキ

ゴマダラチョウ

コクワガタ

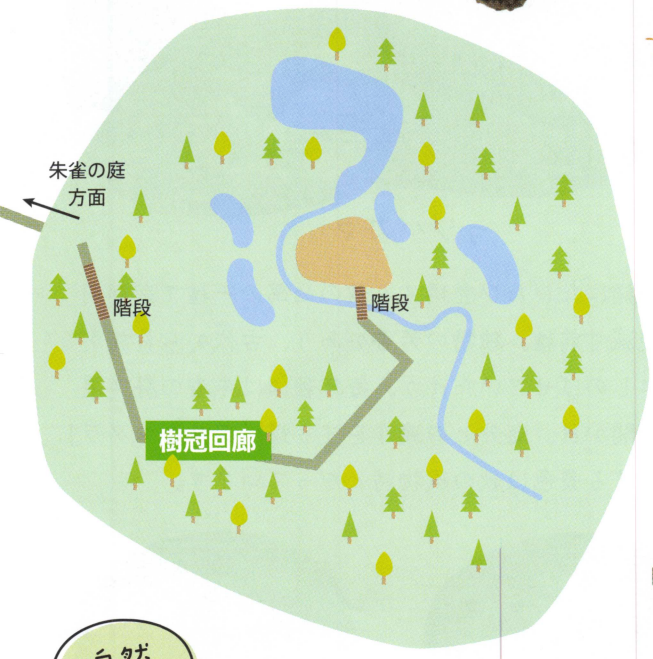

ウチワドコロ

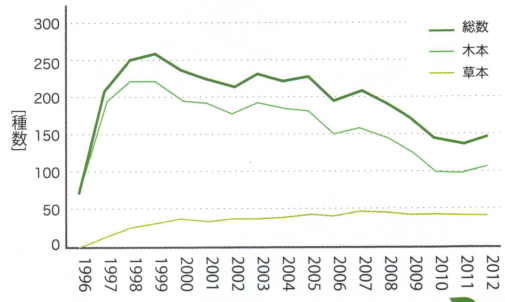
ジョウビタキ

冬虫夏草

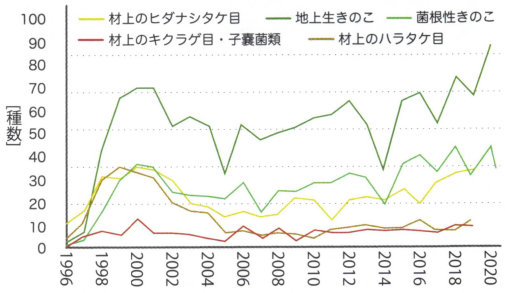
クロコマノチョウ

ウンモンスズメ

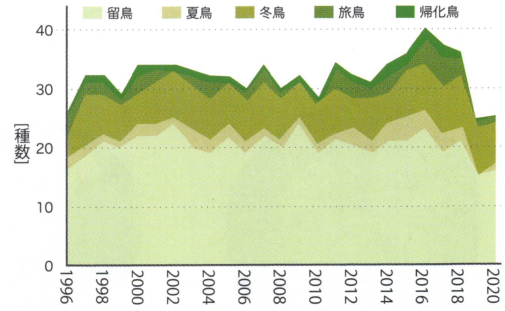




植栽以外の植物種数の推移



生態群ごとの菌類種数の推移



鳥類の年間記録種数の推移

ニリンソウ

カワセミ

いのちの森は都心部における生き物のオアシスであるばかりでなく、まちなかで自然に触れ合い学ぶことができる貴重な場所です。たとえば、子どもの稲作体験やヤゴの観察、いのちの森モニタリンググループメンバーによる解説付きの観察会など、多様なプログラムを体験することができます。

クサガメ

トリュフ
（アボセイヨウショウロ）

04 いのちの森に避難した京にゆかりの植物たち！

『和の花』の保全活動

クリンソウ

京都の里山では、文学にも登場し、生活、お祭りなどに利用され身近に親しまれてきた植物『和の花』が姿を消しつつあります。森の木を切って利用することがなくなったことで森が暗くなり、これらの植物が生育しづらくなったことや、増えすぎたシカに根こそぎ食べられてしまうことが原因とされています。いのちの森では、シカが入ってくることができない街なかの立地を生かして、京都の山々で希少になってしまった植物を保護しています。保全生態学の用語では、自然地以外で保全を行うことを『生息域外保全』、その場所を『避難地（レフュージア）』と呼びますが、いのちの森はまさに貴重な避難地として機能し始めているのです。

ヒオウギ

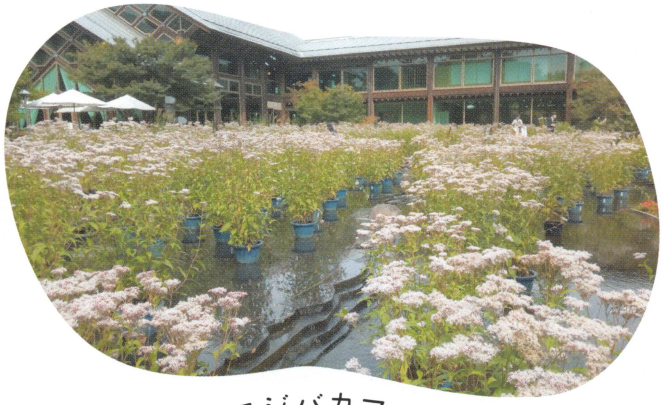
厄除けとして飾られ、根茎は生薬「射干」として重宝されてきました。祇園祭に合わせるように7月中旬頃から花茎が伸び始めます。また、漆黒の種子は枕詞「うばたま」の由来となっています。

フタバアオイ

上賀茂神社・下鴨神社の神紋。京都三大祭りの一つ「葵祭」では、全ての参列者の衣冠・御所車に「葵桂」を挿した飾りを付けるため、1万数千本を使用。現在では府外から不足分を補うこともあります。

サワギキョウ

コガマ



フジバカマ

源氏物語にたびたび登場する秋の七草の一種で京都府では絶滅寸前種。独特の芳香があり、古代から貴族が衣服にしのばせていたそう。毎年秋には朱雀の庭で展示会が開かれ、海外との渡りをする蝶「アサギマダラ」が飛来する景色は秋の風物詩となっています。

ラショウモンカズラ

ヤマブキソウ

コラム：ローカルが重要

国単位では絶滅の危険性は低くても地域レベルでは危機に瀕している種が多数存在します。特に「和の花」や「秋の七草」のように身近にありふれていたのに急速に失われているローカルな絶滅危惧種を掬いあげることは生物多様性の面で近年重要な課題となっています。

アキチョウジ

ノハナショウブ

【テリトーリオとは】
イタリア語で「都市とその周辺の農村が密接につながり、共通の経済・文化のアイデンティティーを保ちつつ、独自の個性を創造・発揮していく」考え方をいいます。

作成：株式会社梅小路まちづくりラボ
作成協力：公益財団法人 京都市都市緑化協会